研究レポート No.232　岩手県農業研究センター
発行　平成１６年４月

小麦の冬期播種栽培技術体系

小麦の冬期播種栽培では、播種量は 10～15 kg/10a、窒素施肥は 8～10 kg/10a を播種同時側条施用する。側条施肥により収量・品質が向上し、雑草の抑草も可能である。加工適性は秋播慣行並を確保できる。

小麦の冬期播種栽培暦

月	10	11			12			1	2	3			4			5			6	7		
旬		上	中	下	上	中	下			上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下
作業等	排水対策、耕起 →				施肥・播種 →					↔ 出芽期				除草剤散布 ↔			↔ 出穂期			↔ 成熟期		

※生育期の病害虫（赤さび病、うどんこ病、赤かび病等）防除については慣行に準ずる。

排水対策 耕起 ⇒ 額縁明渠 心土破砕 圃場内排水溝 …… ロータリー耕（プラウ耕） ⇒ 砕土率向上のため耕起は数回実施。冬雑草抑制のため耕起～播種の間をあけすぎない（概ね３週間以内）。

施肥・播種 ⇒ 播種同時側条施肥（播種と同時に基肥として施肥） ⇒ **播種量：10～15 kg/10a**
窒素施肥量：8～10 kg/10a
※土壌表面が凍結している早朝に播種すると作業性がよい。

除草剤散布 ⇒ 広葉雑草対象の茎葉処理剤（アクチノール乳剤、バサグラン液剤） ⇒ イネ科雑草については、**側条施肥**との組み合わせによる**耕種的防除**を実施。

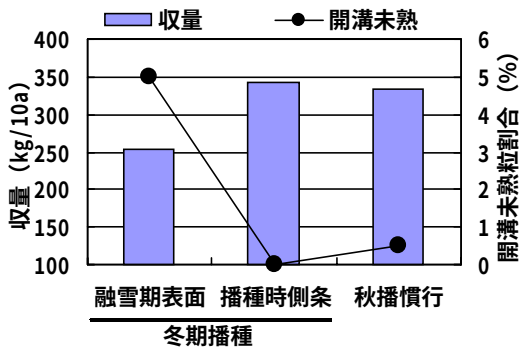

図１　収量・品質の比較（ナンブコムギ）

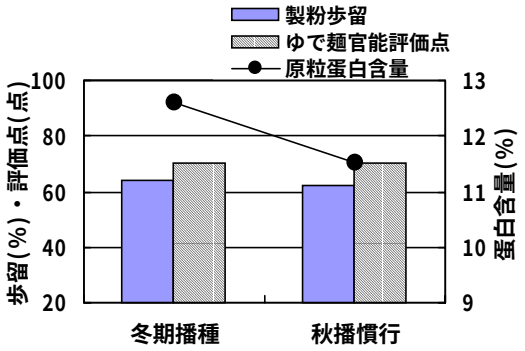

図２　加工適性の比較（ナンブコムギ）

肥料を融雪期に表面施用する従来の方法に比べ、播種時に側条施肥することで慣行の秋播栽培並みの収量・品質（開溝未熟粒が少ない）を確保できる。また、冬期播種栽培は蛋白含量が高く、製粉性やゆで麺の官能評価等の加工適性も慣行の秋播栽培と同等である。

担当研究室　園芸畑作部　野菜畑作研究室
〒024-0003　北上市成田 20-1　TEL. 0197-68-4418　FAX. 0197-71-1083